

第1回総合計画等協議会における主な意見

区分	内容
次期総合計画の背景について	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携の視点は、総務省が検討している自治体戦略 2040 の内容と合致しており、重要な取組と考えている。 ・総合計画の構成として、国全体の大きな課題を示した上で、尼崎の個別の対策を記載した方が市民の共感を得られると考えられるため、工夫してほしい。 ・総合計画における将来推計人口の目標値などの考え方を教えてほしい。
新型コロナウイルス感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによって浮き彫りになった課題を踏まえ、ポストコロナを見据えた尼崎の将来像を描いてほしい。 ・コロナによって市民生活がどう変わり、公共の果たす役割がどうなったのか分析し、次期計画に反映してほしい。
「ありたいまち」、5つの「ありたいようす」	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり構想の骨子「たかまる。便利でご機嫌な暮らし」の、ご機嫌という表現が軽薄な印象がある。 ・ありたいまちは、市民すべてのありたいと思う姿を受け入れるということで抽象的な表現となっている。そのため、尼崎は何を志向しているのかが分かりづらい。市民が具体的に取組内容や将来をイメージできる計画にしてほしい。
市民意見の聴取	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでのタウンミーティング実施は良い取組だと感じた。今後、パブリックコメントも実施されるが、市民意見を十分に吸い上げてほしい。 ・総合計画審議会の市民委員を増やしてはどうか。
総合計画等協議会の進め方 など	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画審議会での議論の内容を確認したい。議事録をタイムリーに公表してもらいたい。 ・次回の総合計画協議会では、計画検討の流れが分かるように、直近の総合計画審議会の内容だけでなく、その次の総合計画審議会でも議論する内容も示し、意見を求めてはどうか。 ・総合計画の検討にあたっては、ICT やコロナなどの新興感染症対策の専門家など、多様な人材の参画のもと進めてほしい。